



CTL Kansai University Center for Teaching and Learning Newsletter

関西大学 教育開発支援センター
ニュースレター

March 2013

11
vol.



FD –10年の経験から思うこと–

教育推進部 副部長
社会学部 教授

関口 理久子



もう10年以上前になりますが、関西大学のファカルティ・ディベロップメント(FD)の一環として、「専門演習における学生の積極的な参加を促すための取り組み」のFDフォーラム(当時)において口頭発表とビデオ制作をしました。その頃はまだ教育推進部創設以前であり、私自身一教員としては手探り状態でFDに取りかかろうとしていた時期のことでした。その頃から10年以上が経ち、専門演習における取り組みは変化しながらも発展していくように思います。

当初、グループワークを取り入れることで授業への積極的参加を促し、学習意欲とコミュニケーション力を高め、研究への興味を喚起し、各自の卒業研究テーマを見つけ、研究を完成させることを目標にしていました。これは、一見うまくいきそうに見えるのですが、学習への動機付けや表現力だけでは研究は成立しません。特に、実験心理学という私の研究領域は、実験計画を立て、データ

を集め、データ分析を行い、仮説の検証を行うといった手法を用いるので、論理的な思考力が必要になります。この「論理的思考力を育てる」というのはなかなかやっかいな大きな壁として、ドーンと立ちはだかっているような気がします。しかし、壁も崩壊します。論理的思考力の育成を最近のFDのテーマとして日々格闘しています。

また、その頃始めた約20人規模の専門演習指導への取り組みの他にも、200人以上の大規模な講義科目、IT機器などを活用した実験実習科目、クラス(30人程度)単位の1年次の導入教育などでは、それぞれの形態に合わせた取り組みができるようになってきました。この頃では、専攻内の他の科目と連動することを意識しながら個々の授業運営をするとともに、他の教員の方々の協力やTAの活用など組織的にできることも取り込みつつあります。10年以上も経ち、やっとFDとはこういうことだったのか…とわかり始めたような気がしています。